

水泳ニツポン・ 中期計画2017-2024 (2023年度 進捗報告)



センターポールに日の丸を!



2024年6月

公益財団法人日本水泳連盟

水泳ニッポン・中期計画2017-2024 要旨

ドリームプロジェクト2020

ドリームプロジェクト2020策定
アジア選手権東京大会開催

2012

2016

水泳ニッポン・中期計画2017-2024

中期計画2017-2024策定

2017

パンパシ選手権東京大会開催

2018

東京五輪開催

2021

世界選手権福岡大会開催

2023

水泳ニッポン・新時代構想

公益財団法人日本水泳連盟創立100周年

2024

①「する」「みる」「ささえる」水泳ファミリーの拡大

- ・日本代表の強化推進による水泳人気の拡大
- ・競技者、指導者、審判、ファン、愛好者の拡大

【ポイント1】
「第2期スポーツ基本計画」に基づき策定

③組織基盤の強化

- ・幅広い分野からの有能な人材の積極的な登用
- ・若手を中心とした人材育成

【ポイント3】 4戦略+8アクションプランで構成

②「泳げない子供・大人」を減らす環境整備

- ・地域内温水プール拠点化構想の推進
- ・安全をより重視した学校体育(水泳授業)の充実

【ポイント2】
「理念」「使命」「行動指針」を明文化

④データベースの再構築

- ・登録、エントリー、課金記録管理の改善
- ・2次利用による次世代収益基盤の確立

センターポールに日の丸を！

競技力向上に努め、センターポールに日の丸を掲げ、人々に勇気と希望を与える。

競泳・飛込
水球・AS
OWS・日本泳法

国民皆泳

水泳の普及に努め、国民皆泳を実現し、人々の健康保持・増進と、水難事故防止に貢献する。

■中期計画策定時の示唆と戦略

示唆

日本代表の活躍により、水泳の認知度は確実に拡大。「する、見る、支える」の全体の層を厚くすることが、競技の持続性に不可欠。

少子化、学校体育における非必修化、学校プール施設・公共プール施設の減少のなか、子供や大人が水に触れる機会の創出は重要。

人口減少、日本経済の財政悪化のなか、スポーツ庁・経済産業省がスポーツ産業の推進・活性化を提唱。

情報化社会は、新たなビジネスチャンスを生み出す。既存データの活用用途の多様化は、組織運営の省力化・効率化・高収益化に有効。

中期計画に向けて

戦略

【戦略2017①】

日本代表の強化推進による水泳人気、水泳人口の拡大
人気・実力・歴史・伝統を兼ねた強みと、国際大会の連続開催でメディアの露出が増える好機を活かし、『水泳ファミリー』を全国的に拡大する。

【戦略2017②】

「泳げない子供」「泳げない大人」を減らす環境整備
地域内温水プール拠点化と学校体育における再必修化
スポーツ庁をはじめとする関係省庁、自治体、地域のスイミングクラブと連携して、地域内温水プール拠点化と学校体育における再必修化を推進し命を守る防災スポーツとして「泳げない子供」「泳げない大人」を減らす。

【戦略2017③】

組織基盤の強化
幅広い分野からの人材の登用と育成
幅広い分野（経営者、メディア出身者、広告代理店出身者、学者、等）からの有能な人材登用を行ない、組織基盤を強化する。

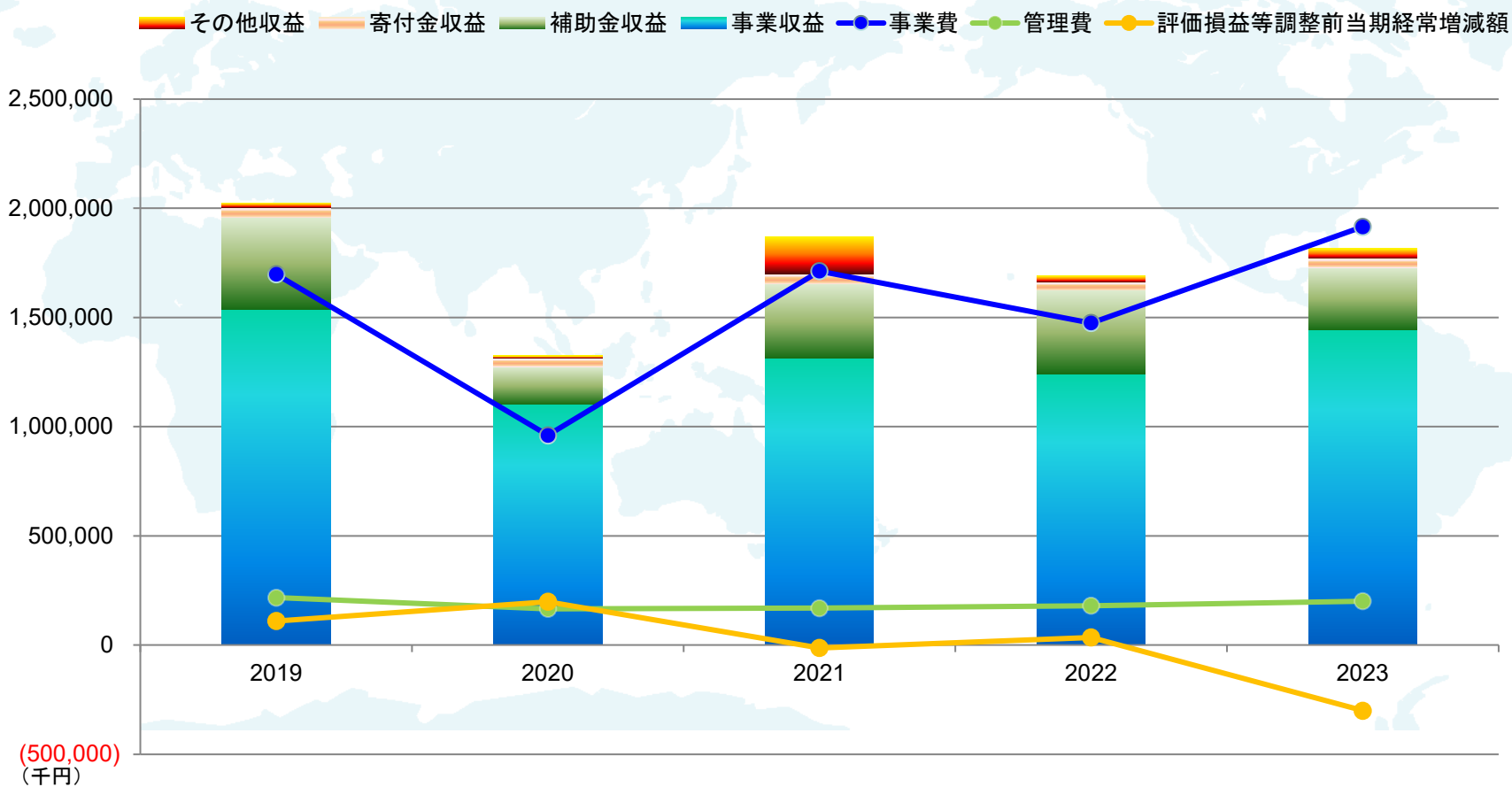
【戦略2017④】

データベースの再構築・再整備
2次利用による次世代の収益基盤へ
情報化社会に適応した、強化・競技運営・登録・医科学・広報など多面的に活用可能なデータベースに再構築し、現状の課題解決、競技力向上と普及活動への活用に加え、2次利用による新たな収益基盤としても活用する。

財務状況

2023年度財務実績 (単位:百万円)

| | | | | |
|--------------|-------------|--------------|------------------------|--------------|
| ■ 事業収益 1,444 | ■ 補助金収益 285 | ■ 寄付金収益 41 | ■ その他収益 44 | ■ 収入合計 1,814 |
| ■ 事業費 1,915 | ■ 管理費 200 | ■ 支出合計 2,115 | ■ 評価損益等調整前当期経常増減額 ▲300 | |



【1】日本代表強化：①競泳

【戦略2017①】

| 年度 | 2023 | 2024 |
|----|--|--|
| 目標 | ①金メダル含む複数のメダル獲得 (達成) ②入賞率60%以上 (未達成) | ①金メダルを含む複数メダル獲得 ②入賞率(対種目数)60%以上 ③ベストタイム達成率(対人数、 リレー第1泳者含む)35%以上 |

| 2023年度 主要大会 | 金 | 銀 | 銅 | 総括 |
|----------------|---|----|----|---|
| 世界選手権 福岡大会 | 0 | 0 | 2 | 世界選手権福岡大会では、 本多選手・瀬戸選手が銅メ ダルを獲得し、入賞率 31.6%。ドーハ大会では本 多選手が金メダル、瀬戸選 手が銅メダルを獲得し、入 賞率32.1%。 各年代に国際大会を経験 させられた。 |
| 世界選手権 ドーハ大会 | 1 | 0 | 1 | |
| アジア大会 | 5 | 10 | 15 | |
| 世界ジュニア 選手権 | 1 | 3 | 3 | |



【1】日本代表強化：②飛込

【戦略2017①】

| 年度 | 2023 | 2024 |
|----|-----------------------------|---|
| 目標 | ①個人種目12位以内、オリンピック出場権の獲得（達成） | ①女子3m飛板飛込、男子高飛メダル獲得 ②シンクロナイズド入賞及びメダル争い |

| 2023年度 主要大会 | 金 | 銀 | 銅 | 総括 |
|----------------|---|---|---|---|
| 世界選手権 福岡大会 | 0 | 0 | 1 | 世界選手権福岡大会では、伊藤洸輝と板橋美波ペア（MIXシンクロ高飛込）が21年ぶりの銅メダル獲得。 歴代最多5名のオリンピック内定となった。 |
| 世界選手権 ドーハ大会 | 0 | 0 | 0 | |
| アジア大会 | 0 | 1 | 2 | |



【1】日本代表強化：③水球

【戦略2017①】

| 年度 | 2023 | 2024 |
|----|---------------|--------------|
| 目標 | アジア大会優勝（一部達成） | ベスト8進出～メダル獲得 |

| 2023年度 主要大会 | 順位 | | 総括 |
|----------------|-----|-----|---|
| | 男子 | 女子 | |
| 世界選手権 福岡大会 | 11位 | 14位 | アジア大会で男子は53年ぶりに優勝を果たし、パリ五輪の出場権獲得、女子は2位となった。 |
| アジア大会 | 優勝 | 2位 | |
| アジアエージ選手権 | 優勝 | 優勝 | 次世代強化として、アジアエージ選手権に出場し、男女ともに優勝を果たした。 |



【1】日本代表強化：④AS

【戦略2017①】

| 年度 | 2023 | 2024 |
|----|------------------------------|-------|
| 目標 | 世界選手権全種目メダル獲得 (未達も過去最高成績) | メダル獲得 |

| 2023年度 主要大会 | 金 | 銀 | 銅 | 総括 |
|----------------|---|---|---|---|
| 世界選手権 福岡大会 | 4 | 1 | 2 | 世界選手権福岡大会にて 乾友紀子選手が世界選手 権2連覇の偉業を成し遂げ、 デュエットテクニカルでも安 永真白・比嘉もえ組が22年 ぶりの金メダルに輝き、過 去最高の成績となる。 |
| 世界選手権 ドーハ大会 | 0 | 1 | 1 | |
| 世界ユース選手権 | 1 | 1 | 1 | 世界ユース大会での活躍も 次世代での存在感を示すこ とができた。 |



【1】日本代表強化:⑤OWS

【戦略2017①】

| 年度 | 2023 | 2024 |
|----|--------------------------------|------------|
| 目標 | 世界選手権10kmにおいて 男女子10位以内(未達成) | 男女ともに16位以内 |

| 2023年度 主要大会 | 金 | 銀 | 銅 | 総括 |
|----------------|---|---|---|--|
| 世界選手権 福岡大会 | 0 | 0 | 0 | 世界選手権ドーハ大会で女子が13位個人枠、男子が22位大陸枠代表にてパリ五輪の出場権を獲得した。 次世代を全豪選手権に派遣し、全員がメダル獲得とロス五輪に繋がる良い結果となった。 |
| 世界選手権 ドーハ大会 | 0 | 0 | 0 | |
| 全豪選手権大会 | 1 | 3 | 1 | |



【2】指導者

世界屈指の指導者養成体制を堅持・発展させ、水泳日本代表の強化を支えます。
加盟団体と連携して、全国の「泳げない子供」「泳げない大人」を減らします。

【戦略2017①】

【戦略2017②】

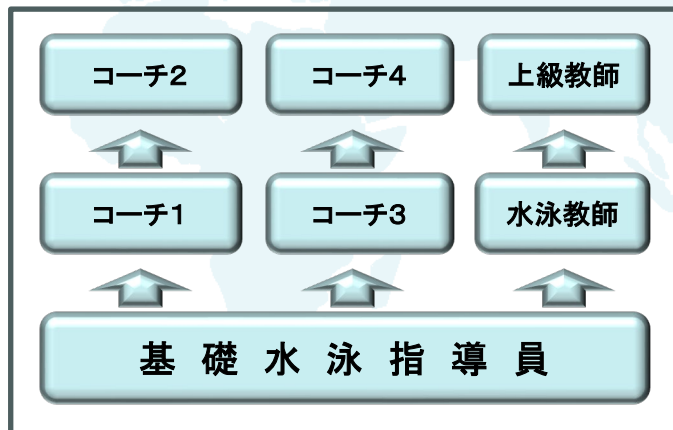
2024

年度

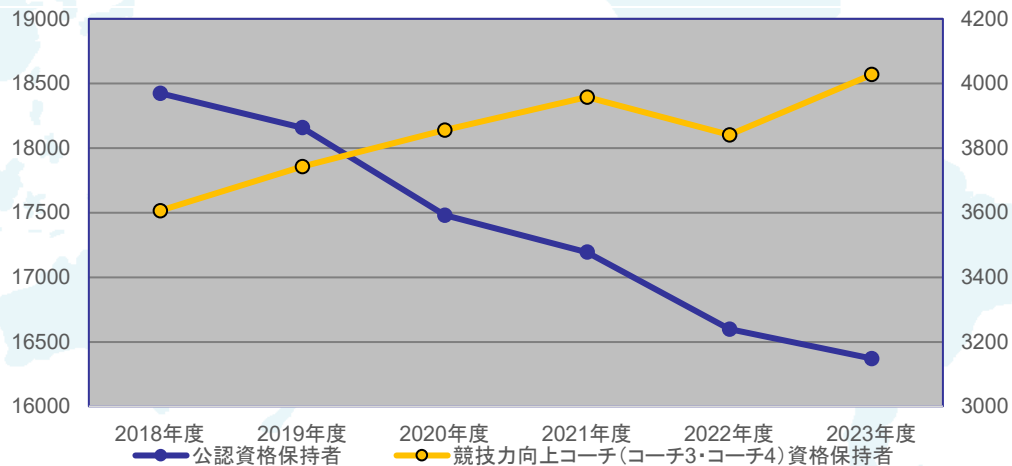
目標

- ①公認指導者 21,000人
- ②世界レベルの指導者の拡充

■公認指導者資格の体系



■公認指導者資格および競技力向上コーチ資格保持者推移



2023年度 公認指導者資格保持者内訳(単位:人)

| 基礎水泳指導員 | コーチ1 | コーチ2 | コーチ3 | コーチ4 | 水泳教師 | 上級教師 | 合計 |
|---------|-------|-------|-------|------|-------|------|--------|
| 1,072 | 7,729 | 1,215 | 3,148 | 880 | 1,941 | 386 | 16,371 |

【3】審判

選手の力を引き出す高いレベルの審判員を養成し、全国の競技会をより充実させます。
国際基準の眼を常に培い、世界トップレベルの審判員を常時養成します。

【戦略2017①】

【戦略2017②】

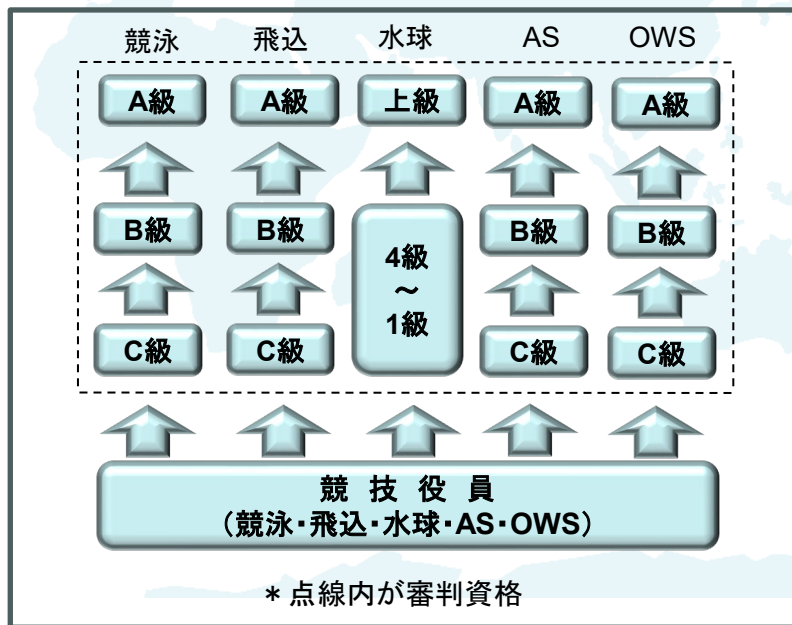
年度

2024

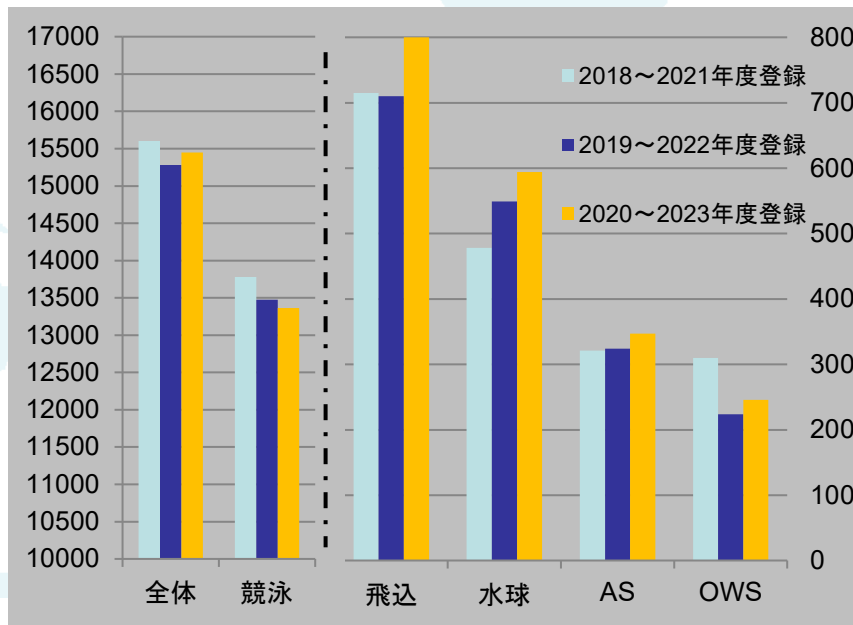
目標

- ①公認審判員：17000人
- ②国際審判員養成の拡充継続

■公認審判員制度の体系



■公認審判員数の推移



(単位:人)

【戦略2017①】

【戦略2017③】

【戦略2017④】

【4】競技会

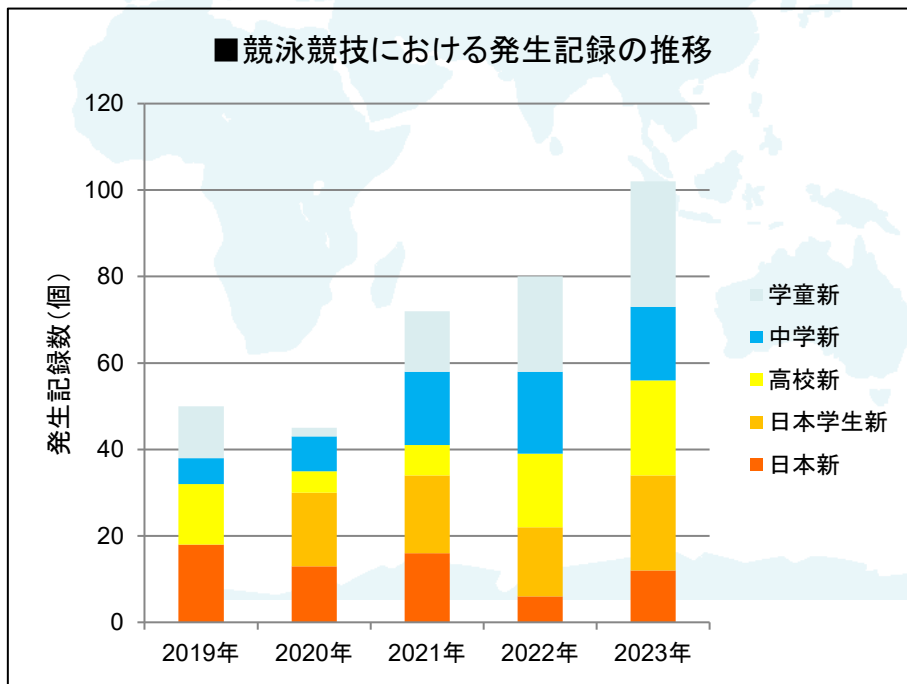
国内競技会は、強化・普及の基盤として、目的・時期・場所を選定して開催します。
国際競技会は、国際戦略に則り、強化・普及に有効な大会を招致・開催します。

2024

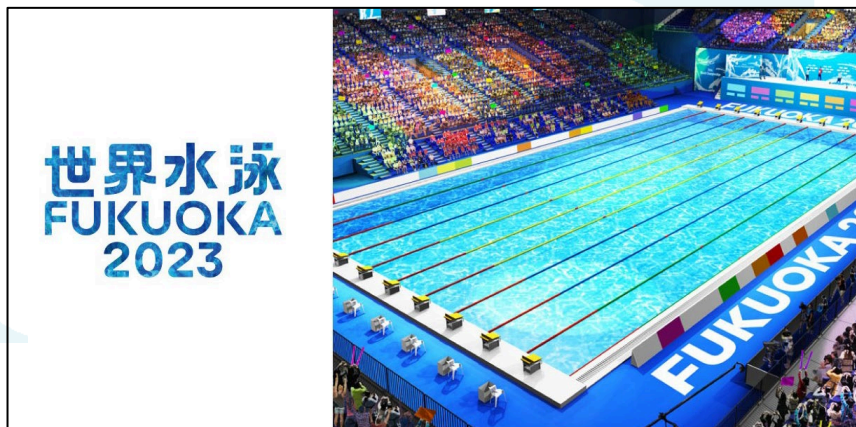
年度

目標

- ①国内競技会の拡充
- ②世界水泳選手権(福岡)を通じた運営能力の向上



世界選手権大会(福岡)において証明した国際基準の高い大会運営を継続するため、実技研修や講習会を活用し、競技規則の改訂についても周知徹底を図り、国際大会代表選手選考会等をはじめ国内競技会において主管団体と連携して全国で統一した高いレベルの競技会を実施した。



【戦略2017①】

【戦略2017③】

【戦略2017④】

【5】マーケティング

日本のお家芸・水泳。「水泳ニッポン」の高いブランド力を更に強め、日本水泳界の一層の価値向上と市場の拡大に努めます。

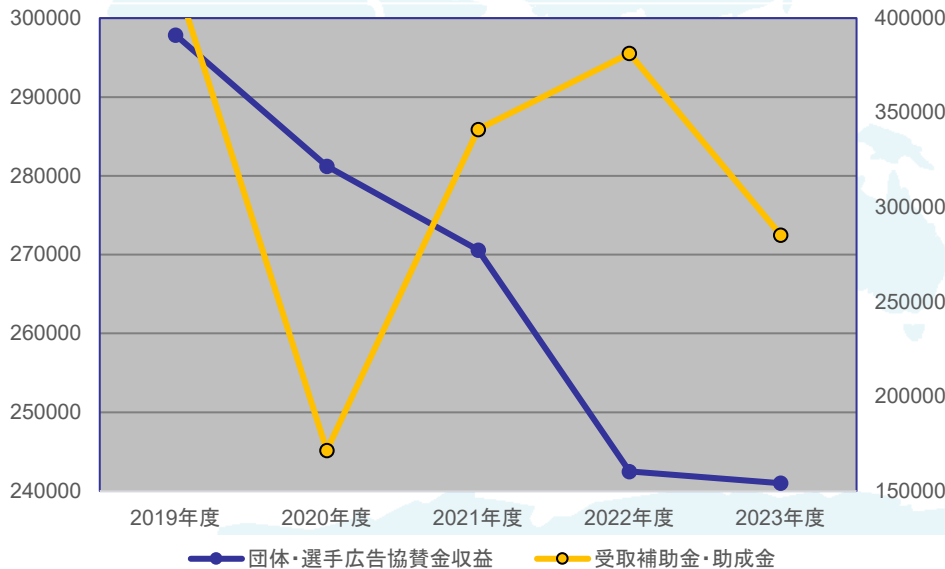
年度

2024

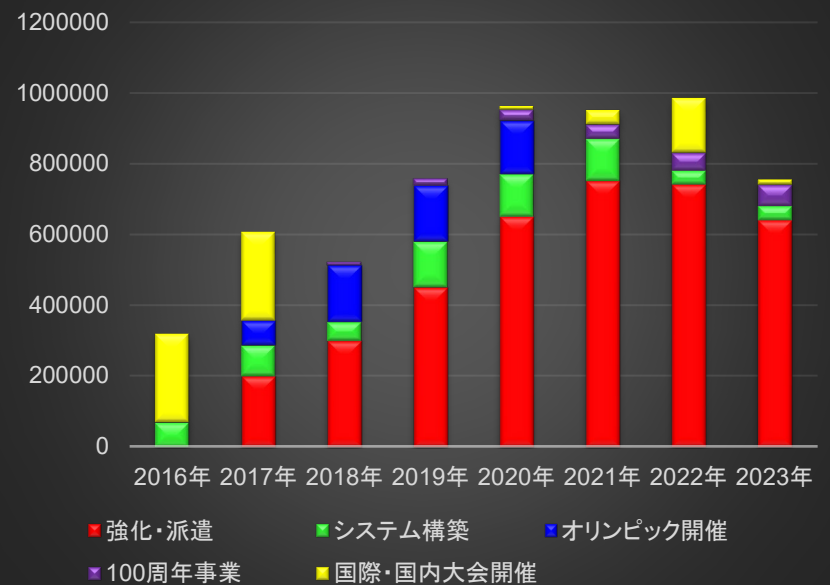
目標

- ①マーケティング事業の強化
- ②ブランディングの更なる強化

■ 団体・選手広告協賛金および受取補助金・助成金推移



特定費用準備資金・資産取得資金の準備状況



【6】組織基盤

温故知新の精神でこれまでの100年を総括し、これから100年間持続可能な組織基盤を構築します。水泳の統括団体として、高潔・公正・高志を貫きます。

【戦略2017③】

【戦略2017④】

年度

2024

目標

- ①組織基盤の強化
- ②全加盟団体との理念・使命・行動指針の共有

スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉に基づく
定款および規程の変更・制定

主な変更点・制定

| | |
|-----|---|
| 理事 | <ul style="list-style-type: none"> ・理事総数を「16～20名」に縮減。 ・加盟団体理事＋外部理事＋業務執行理事＋その他理事により構成。 ・女性割合40%以上、外部割合25%を設定。 |
| 評議員 | <ul style="list-style-type: none"> ・加盟団体評議員＋外部評議員＋業務執行評議員（専門委員会から選出）により構成。 ・女性割合20%以上、外部割合4%以上を設定。 ・就任時の年齢上限70歳未満、再任制限を設定。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・優秀な人材確保に向けた施策導入（役員報酬の支給可、有給専門職の雇用可）。 ・独立した役員候補者選考委員会の設置。 ・利益相反管理規程の制定 |



ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」への賛同

【7】普及

多くの人に水泳の楽しさを伝え、生涯、誰もが気軽に親しめる水泳の本質を広めます。
水泳を通じて全国の「泳げない子供」「泳げない大人」を減らし、国民皆泳を実現します。

【戦略2017①】

【戦略2017②】

2024

年度

目標

- ①国民皆泳の実現
- ②水泳ファミリーの拡大

| 2023年度の 主な実施事業 | 総括 |
|---------------------|---|
| 水泳の日2023・広島 | 広島市のビックウェーブにて久しぶりに観客を入れて開催。2,000名を超えるたくさんの方々の来場により盛況のうちに終了 |
| ニチレイチャレンジ 泳力検定 | コロナウィルスの影響も徐々に落ち着き、開催団体も増え、増加傾向 受検者数52,989名(前期比+2,625名) 合格者数41,415名(前期比+5,097名) |
| 日本スポーツマスターズ 福井大会 | 38都道府県より参加者648名にて開催。 10年連続出場者9名、20回出場者8名の方々の記念表彰を実施 |



【8】社会貢献

日本水泳連盟の持続的成長のために、人と社会と共有する価値の構築を目指す。

【戦略2017①】

【戦略2017②】

年度

2024

目標

- ①全国各地での防災教育支援
- ②オリンピック等による教育プログラム実践

アスリートの社会貢献活動を推進し、アスリート・スポーツの価値を活用した国内外の社会課題解決、講演・イベント・セミナー等を実施



学校での水泳・着衣泳教室を実施
「スイムスマイルプロジェクト」



着なくなった水着や衣類のリサイクル・リユース活動
「WEAR to Fashion」

Women's Health Project for Japanese Swimmers

女性水泳選手が抱える健康問題に対し、選手・指導者・保護者等を対象に教育・啓発・課題抽出・受診環境整備を行い競技力向上に寄与する目的で活動

「Women's Health Project」



● センターボールに日の丸を! 
公益財団法人日本水泳連盟